



# みはま歴文だより

令和8年3月25日発行

◇編集・発行◇

美浜町歴史文化館

## 「みはま歴文講座」 ご受講ありがとうございました!!

美浜町では、1月後半の長期大寒波の影響で珍しく雪の多い冬になりました。足元の悪い中ご来館のみなさまにはご迷惑をおかけしましたm(\_)\_m 3月7日には今年度最終の第5回歴文講座を開催し、「みはま歴文講座」は、特別企画を含め全6回の講座を無事終えることができました。今年度も大変多くの方にご受講いただきありがとうございました。

また、第17回企画展を開催しました。若狭国吉城歴史資料館との交換展示という初の試みで、国吉城歴史資料館でも当館との交換展示を2回開催しました。たくさんの方に両館を知っていただく機会になったのではと期待しています。

### みはま歴文講座

●第3回講座「震災転じ福をなした江戸時代の若狭の人々」を、11月8日に開講しました。

講師の滋賀県立琵琶湖博物館特別研究員の小松原琢さんには、1662年に若狭や京都、近江地方を襲った寛文地震の詳細や、復興にあたった行方久兵衛をはじめとした小浜藩の対応などについて講演いただきました。

●第4回講座「名づけの民俗とエビス」を12月7日、講師に成城大学名誉教授の田中宣一さんをお迎えして開講しました。

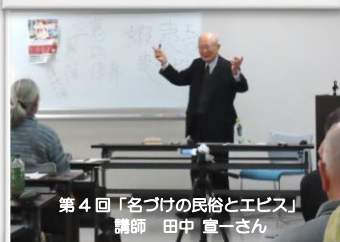
モノに名前をつけるということは、どういうことか。人名、地名、生物名、物品名などいくつか事例をあげて名づけという行為について、また、美浜をはじめ若狭で古くから信じられている「エビス」という不思議な名を持つ神について講演いただきました。

●第5回講座「未来の例大祭を考える」を、3月7日に開講しました。講師には、國學院大學客員教授で、美浜町の伝統文化継承アドバイザーでもある橋本裕之さんをお迎えしました。

例大祭をとりまく環境の変化や、小学校での祭礼学習などをふまえ、未来の例大祭のあり方について参加者と共に考える内容でした。



第3回「震災転じ福をなした江戸時代の若狭の人々」 講師 小松原 琢さん



第4回「名づけの民俗とエビス」 講師 田中 宣一さん



第5回「未来の例大祭を考える」 講師 橋本 裕之さん

## 史跡興道寺廃寺跡 公有化を進めています!

平成30年2月に美浜町初の国史跡として登録された「興道寺廃寺跡」。令和元年度に策定された「保存活用計画書」等に基づき、史跡の保存管理と整備活用に向けた取組を計画的に進めています。現在は地権者のご理解のもと史跡指定地の公有化を進めており、今年度は区域内唯一の宅地について建物移転を含めた公有化を行い、本格的な一歩を踏み出しました。来年度以降も計画的に公有化を進め、将来的には町民の皆さんが誇りを感じ親しみを持って集える場所にしたいと考えています。ご期待ください!



### 企画展示



第17回企画展「美浜と軽井沢の不思議な縁」を、若狭国吉城歴史資料館との交換展示として、令和7年1月20日〜令和8年3月25日まで開催しました。旧三笠ホテルのリニューアルオープンを記念した企画展で、町内各公共施設などで巡回展示をしていきました。当館がトリを飾りました。美浜町と軽井沢、三笠ホテルがどのような縁で結ばれているのか?新聞やチラシを見て来館された方など、もいて、関心をもっていたいただいたようでした。

## 視察研修

文化財保護委員の視察研修が、10月30日に行われました。

まずは若狭町役場で学芸員さんから若狭町の文化財についてのお話を聞き、熊川宿を案内して頂きました。次に滋賀県高島市にリニューアルオープンした中江藤樹・たかしまミュージアムへ、その後史跡藤樹書院跡・大溝陣屋総門を見学するコースで行ってきました。

委員のみなさんは大変熱心に見学しておられ、質問も次々と出てきて時間が足りないほどでした。



大溝陣屋 総門



たかしまミュージアム



若狭熊川宿

## 令和7年度を振り返る 一数字で見る歴史一

- 入館者数 3,022名 (R8.3.10 現在)
- みはま歴史講座受講者数 179名
 

特別企画	4名	第1回	39名	第2回	42名
		第3回	38名	第4回	24名
		第5回	32名		
- 学校等見学 4校
 

敦賀県立看護大学	美浜町内小学校3年生 (3校)
----------	-----------------

### Youtube 配信予定!

令和6年度みはま歴史講座  
第2回講座「古代若狭・越前と交路」

New

### 歴史文化館のSNS

QRコードを読みとって見てね!



◎お問い合わせ  
美浜町歴史文化館  
〒919-1138

福井県三方郡美浜町河原市 8-8  
TEL 0770(32)0027 FAX 0770(32)0615  
E-mail bunkazai@town.fukui-mihama.lg.jp

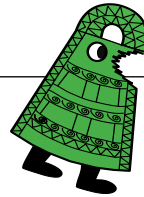


## 文化財防火デー

今年も1月26日の「文化財防火デー」にあわせ、町指定文化財の防火査察が行われました。

今年は大寒波の影響で、予定していた5日のうち2日間しか実施できず、当館を会場に行われる予定の文化財防衛訓練も中止となりました。

文化財防火査察では、毎回保護委員さんに立ち合いをお願いして、指定文化財の保存状態や保管施設の設備などについて、ご意見を頂いています。



## 文化財逍遙

### 六体地藏石仏 (宮代)

彌美神社参道入口にある高さ187cm、幅126cmの花崗岩の石仏です。正面は平滑に整えられ50cmの基壇の上に像高40~42cmほどの六体地藏が縦二段に掘り出されています。造立は、粟屋元隆の園林寺への田の寄進と関係があると伝承されています。

正面左に造立の年号(大永八年(1528)二月)と陰刻されており、制作年代が判明する貴重な作例です。時は室町中期、信玄や謙信や信長が生まれた頃から永くこの地を見守り続けてきたまさにタイムカプセル的の石仏です。



文化遺産カード No.18

## 徒然雑記

### 「知っているようで知らない」

本年度歴史講座の通しテーマは「知っているようで知らないなるほど郷土学」。京都言葉が地方に伝播し方言に、その伝播速度は1年に1kmとか。べけ(X)も押しピンも方言だったとは! 古代300年余に亘り興道寺廃寺が三方郡の中心だったとか。江戸中期に日向断層等を震源とする能登半島地震に匹敵する地震が発生したとか。日向湖は江戸中期まで淡水だったとは! 久々子湖や菅湖の形はもっと丸くて大きかったとか。浦見川開削に小浜藩の年間予算の4倍を要したが、結果として小浜藩の財政危機を救ったとか。イザナギとイザナミの不具の子蛭子が七福神の恵比寿に繋がっているとかetc. いや実におもしろい!